

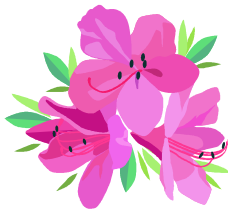


# 野田小だより

学校教育目標

- がんばる子
- やさしい子
- 学びつづける子

平成27年 5月 1日



## 5月 21世紀を生きる

校長 三澤 仁生

校庭にはハナミズキの紅白の花が咲き誇っています。

入学式から一週間ほど経った4月14日に行われた「一年生を迎える会」では、一年生が立派なあいさつをしていました。考えてみれば、一年生も数日前までは、幼稚園や保育園で、年長さんとして園を代表する活動を立派にこなしていたわけですから、いろいろなことができるのは当然かもしれません。

さて、最近2045年問題（シンギュラリティ）という言葉をお聞きになったことはありますか？ これは、人工知能が2045年には人間の知性を追い越してしまうという問題だそうです。すでに、将棋やチェスでは、人間がコンピュータに負けるという事態が起こっていますが、それ以外の分野でも逆転現象が起きてしまうのだそうです。

映画「2001年宇宙の旅」では、人工知能が自分の危機を察知し、宇宙船の乗員に危害を与えてしまいますし、「ターミネーター」では、未来から現在にロボットを送り出します。そのような、人工知能が人間を支配する世界が現実になってくると真剣に議論されているそうです。

そこまでは行かないにしても、人間が作り出した物に人間の生活が左右されてしまう……。これはもう実際に起こっています。

例えば、情報を素早く簡単に手に入れることができるスマートフォンですが、片時も手を放すことができず、逆に振り回されてしまう。使いこなすべき人間が、まるで機械に支配されているようでもあります。

急速に変化し、先の見通しがつき難い現代ですが、子どもたちは身近な大人の背中を見て育っています。これからの社会を、機械や道具に振り回されることなく、豊かに生きていけるよう、私たち大人が正しい知識に基づいた判断力、そして自らを律する姿勢を子どもたちに示していきたいものです。



校庭のハナミズキ



岩石園のサクラソウ



あいさつ運動（児童会と東警察）



離任式